

| 第6期第4回横浜市子ども・子育て会議 放課後部会 会議録 | |
|---|--|
| 日 時 | 令和6年3月25日(月) 19時00分～20時37分 |
| 開催場所 | 横浜市庁舎 18階 みなと6・7会議室 |
| 出席者 | 明石要一部会長、青山鉄兵副部会長、池田浩久委員、鈴木裕子委員、高杉陽子委員、辺見伸一委員、松本豊委員、三浦尚美委員 |
| 欠席者 | 江口和良委員、宮永千恵子委員 |
| 開催形態 | 公開(傍聴者3人) |
| 議 題 | (1) 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画について (2) 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画に向けた新たな点検・評価の試行実施(案)について (3) 令和6年度放課後施策について |
| <p>(1) 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画について (事務局) 資料5に基づき説明</p> <p>(青山副部会長) 幾つかあるが、1点目は「子ども・青少年」という言い方をもう少し工夫できないかという点です。「子ども・青少年」というのはほかでも使われているものかもしれませんが、全体にわたって、かなり重複もありそうだと感じています。</p> <p>2点目は全体の施策の対象となる子どもや若者のことを考えたときに、特に思春期以降の若者に関する施策がかなり手薄に見える点です。居場所も、中高生こそ必要と言われる中で「小学生の居場所」という文言になっていたり、バランスを意識したときに、中高生年代以降の生きづらさや居場所の問題がもう少し手厚く見える書きぶりに、目標レベルでも施策レベルでも落とし込んでいく必要があると思います。</p> <p>3点目は格差の解消をもう少し強調できないかという点です。学校以上に放課後のほうが格差が生じやすい。特に今だと体験格差ということも言われますが、やはり全ての子どもと特定のニーズのある子どもたちの両方をサポートしていくよということはもう十分表現されていると思いますが、格差の解消というのがもっと強調されていいのが3点目です。</p> <p>4点目は放課後キッズも含めて、学校内での居場所づくりというのはかなり充実してきたと思うんですね。もう一方で、横浜市の課題を考えたときに、また、思春期以降の年代も重視してということになると、学校外の居場所の整備もそろそろ着手が必要じゃないかと思っています。特に児童館がないのが横浜市の特徴で、どうしても全てを学校の中でどうにかしていこうよというのが今のニーズにも合っていた、必要のあった動きだと思いますけれども、理想的には、やはり学校の中だけじゃないところに、多様な居場所や活動の拠点があることが望ましいと思うので、そのあたりももし書き込めるなら、ぜひ書き込んでいきたいなと思いました。</p> | |

(明石部会長) どうでしょうか、「子ども・青少年」という表現をどういう形で使っていくのでしょうか

(事務局) これまで御指摘をいただいたことがない視点で、重複感については、何か考えていけたらと思いますので、委員の皆様から御助言をいただけたらと思います。こちらが最初の御指摘へのお答えになります。

2つ目は、中高学年以上の居場所や、そちらの施策をより手厚くしていくべきだということで、こども大綱を踏まえて、こども計画としていく以上、しっかり取り組んでいくべきことだと思います。こども青少年局だけで取り組むのではなく、関係局と連携しながら進めてまいりたいと考えており、本日はこども青少年局の取組が中心になっていますが、庁内では、関係局とも、この計画に資するものはどんなものがあるか、子どもの居場所や、体験の部分はかなり大きいと思っていますので、どういったものが入られるか調整しています。素案の段階になりましたら、しっかりお示しできると思いますので、その時点でまた御意見をいただければと思っています。

格差の解消も、放課後部分が生じやすいというのも、体験活動等が顕著に表れやすいと思っています。ニーズ調査を見ましても、所得ごとに分析をすると、やはり体験の機会は明確に差が出ます。その部分を、公的な部分として何をやっていくべきか、しっかり考えたいと思います。

(明石部会長) 私も、横浜市の施策は、生まれる前から乳幼児期のこと、子どもの放課後にはかなり力を入れて充実してきていると感じています。また、高校生、大学生、専門学校生等の若者の集まる場とかに、この施策が頑張っていると思いますが、もう少し力を入れてもいいかなと思っています。ぜひ御検討をお願いできればと思います。

(池田委員) 私のほうからは2つほどありまして、1つ目は、ウェルビーイングと居場所づくりや体験活動の充実という方向性のところで、もう少しそこを教えていただきたいなと思います。何かというと、子どもたちのウェルビーイングはとても大事なことだと思っています。それに対して、新たに居場所づくりや体験活動を始めていきますというものなのか、既にあるものの中で、そういったウェルビーイングの方向性を増していくのかというのが、1つ目の質問になります。

2つ目は、そうした場合に、私もキッズクラブの評議会とかに出ていますが、この1年間、こういう活動をやっていますよというような報告はあるんですが、ウェルビーイングの話をしている場合に、どういったものがあったらそれが満たされていくのかという指針がよく分からなくて、それに対する指針というのがあるといいなというのが希望です。

今その2つが私の質問なんですけれども、先ほど青山委員が言われた子どもの居場所、うちの子どもたちも、実はキッズではなくて公園によく行っているんですが、子どもたちの居場所はとても多いので、そういった視点はとてもありがたいなと思って、青山委員の御意見にちょっと付け足し

をさせていただきます。

(事務局) まず1点目の子どもたちのウェルビーイングを高めていくための居場所、体験活動について、既存のものを深めていくのか、新たなものでいくのかというところでいけば、両方だと考えております。地域の皆様をはじめとして、子どもたちの居場所づくりの取組は様々行われています。市の施策もありますので、その部分をより良くしていくという視点と、池田委員からは、これまでの点検・評価等でも様々な御意見をいただいている部分についても、よりよいものにしていきたいと思っております。新しいものについても、ニーズ調査等を分析しながら、求められているものがあれば、こども青少年局だけでやるものではないかもしれませんが、関係局と連携しながら取り組んでまいりたいと考えております。

子どもたちのウェルビーイングの評価については、審議会の場で皆様の御意見を伺いながら、また、子どもたちの意見も聞きながら考えていくべき部分だと思いますので、また御助言をいただきたいと思っております。

(明石部会長) 個人的には、よく横浜は、ウェルビーイングという言葉を使ってくれているなど、感謝しています。これは前野先生がこのウェルビーイング研究の第一人者で、彼は4つの視点を言っています。とにかくやってみましょう(トライアンドエラー)。あとは、ありがとうと周りにつながりを求めて感謝をしましょう。3つ目は、何とかなるよ。空回りしても何か幸せがくるよ。それで、今のあなた、そのままでいいですよ。4つのポイントがあると言っているんですね。

私は、その4つのポイントが一番保障できるのは、プレイパークかなと。横浜はプレイパークを頑張っていますから、当然地域とのつながりがあって、感謝をして、やってみて、それで何とかなる、ありのままということのある程度大きな指標に掲げて点検していただけると…。非常にいい、このワードを大事にしてもらえばと思っております。

(松本委員) 資料5の22ページです。(地域での子ども・青少年の見守り)ということで、辺見委員も関わっていらっしゃる「青少年指導員や横浜市少年五団体が」という文言が入ってきたんですね。これは青少年五団体について説明をすると、子ども会、ボーイスカウトさん、ガールスカウトさん、海洋少年団さん、それから健民少年団。これが日頃連携して情報交換し、年1回交流会を持っている。そして、それぞれの組織が地元で、子ども会は子ども会、ボーイスカウトはボーイスカウトで、それぞれの団で活動しています。これが、やはりこの中にもありますように「多様な地域資源」。これが「青少年育成の担い手の高齢化や新たな担い手の確保などの課題に取り組む必要がある」というように、実際苦しい状態になっています。

資金的な補助金についても、本当にそれぞれの組織にしてみると、横浜市の場合、失礼ながらあまり多くないということで、苦しい思いをしているんですけれども、次の23ページの(4)「主な事

業・取組」の中の下に赤字で、「青少年指導員や横浜少年五団体の活動支援」という言葉が入りました。ここは放課後部会ですので、本来、私の発言は、ほかの部会で御検討いただくところかと思うんですけども、今、自分が直接関わっているところでこのような支援ということが取り上げられると、大変感謝しております。ぜひ期待しておりますので、市役所挙げて御支援いただきますように、よろしくお願いいたします。

もう一つあります。16 ページのキーワードの中に、「地域との連携」とか「地域力の活用」とか、何かそういう地域につながるものが何かあると、良いと思いました。御検討いただければと思います。

(明石部会長)もう1点、私は16 ページのキーワードの中に「合意形成」を入れていただけると良いと思っています。今、一番子どもたちで難しいのは、みんなで集まって合意形成というか、ディスカッションして、みんなの違いを認めながら、ある提案をしていくということ。

かつては、子ども会で子どもたちが地域で揉まれて意見を出し合って、ある意見をつくっていく。学校の学級会とか特別活動で必ずけんかをしていました。それである合意をつくっていくというのが、日本人は今、一番弱いと思っています。子どもたちが合意形成の体験をしてくれるといいかなということで、検討していただくといいかと思っています。

(三浦委員) 20 ページの重点取組②なんですけれども、「子育て家庭が実感できる『ゆとり』を創出する取組」とありまして、その一つが、朝の子どもの居場所づくりということもそれにつながっていくのかなと思っているんですけれども、それ以外に、具体的に、この取組として何か検討されていることがありましたら教えていただきたいと思います。

(事務局)「子育て家庭が実感できる『ゆとり』を創出する取組」の部分では、来年度予算でも幾つか取組をお示ししています。時間的、精神的、経済的負担の軽減ということで出しているものがございます。例えば、放課後部会の所掌からはずれますが、未就学児の家庭については、保育園に通うときに荷物がとても多く大変なため、できるだけ保育園で用意し、持参しなくてもいいことで、荷物の準備にかかる時間を軽減することで時間的なゆとりを生み出していくという取組の実施、放課後部会の話では、この後の話題でも出ますが、夏休み期間中の昼食提供について、保護者が夏休み期間中は自分たちでお弁当を作らなければいけない、仕事をしている中でかなり負担になっていることを捉え、昼食提供を実施します。全クラブでモデル的に実施する予定です。

令和6年度予算について御紹介いたしました。今後もニーズ調査等を踏まえて、保護者が子育てにゆとりを持てるような施策はどのようなものがあるか等を検討して、つなげていきたいと考えております。

(三浦委員)私の周りの子育て家庭を直接見ている感じで言いますと、御両親とも働いていらっしゃる家庭が本当に増えている、本当に皆さんお忙しいようで、まさにゆとりがないなというところが多いので、そういうところをゆとりを持ってもっと過ごしてもらえたら、本当にいいなと思っていますので、ぜひ続けて御検討をよろしくお願いいたします。

(辺見委員)22 ページ、「現状と課題」の上から4つ目に「放課後キッズクラブ」といろいろ文言を書いてありまして、私、以前もお話ししたんですけれども、やはり高学年のお子さんが少ないということで、先ほどのアンケートか何かのところ、66%が遊ぶ場所が少ないというのは、私、キッズクラブの委員になっていまして、やはりキッズクラブのお子さんは小さいお子様が多くて、1年生から3年生ぐらいですと、数名でトランプとか、いろんなゲームができるんですけれども、4年生ぐらいになると、やっぱり外で遊ぶか、教室だけだと寂しいんじゃないのかな、動く範囲が少なくなる。そうすると校庭ということもあるんでしょうけれども、校庭に行くとなると今度はスタッフの目が届かないところも出てきているのかなと思うんですよね。今回、スタッフを最低でも2名とか、どこかに文言が書いてあったのを覚えているんですけれども、もう少しその辺を、高学年は確かに少ないことは少ないですが、その子どもたちへも支援ができるようなクラブになったら、なおいいのかなと思っています。

(明石部会長)同時に、横浜は児童館がなく、東京の場合、児童館があるから、体育館的なところで小学校高学年、中学生、高校生が集まって遊んでいるので、今後、やっぱり学校の中で、辺見委員がおっしゃるように、体育館とか特別教室とか、そういう新たな空間を設定してくれると、高学年の子どもたちも集まってくるかなという感じはしております。その辺、ぜひ検討していただければと思っております。

(事務局)高学年の利用は確かに少なく、高学年のお子さんは、体を動かす活動、そういったものに魅力を感じるお子さんが多くて、そういったものをどうやって増やしていけるかということ、あとは、小さいお子さんとちょっと上の年齢で離れていて、一緒に遊ぶのが難しかったりしますので、高学年なりの役割みたいなものを与えてあげて、グループの中の中心的な役割を取っていただくとか、そういったことを工夫していけたらなと思っております。

(鈴木委員)今、子どもたちも、それから御家庭の皆様も非常に多様化していると感じています。それだけニーズも多様化している中で、それに合わせていくというのは本当に難しいことだと思いますけれども、今、皆様の御意見を伺いながら、改めていろいろな課題を確認させていただきました。

今、この方針とか骨子を考えている段階ですので、他の委員からいただいたような視点も持ちながら、さらに具体的などころで考えていければ良いと思っております。

(高杉委員) 高学年の利用について、これまでの放課後部会でも議論をしていて、高学年は、無料区分で来ると4時までには帰らなきゃいけないので、キッズにいる時間は短いと思っています。それを保護者の方も、有料区分に変えて高学年を預けたいと思っている御家庭と、高学年になったからいいかな、という御家庭もあることを思うと、そこも伸びない理由かと思いました。

確かに高学年の子どもが来てくれると、小さい子どもの面倒を見てくれたり、小さい子どもたちも、高学年の子に寄って行って、いろいろお話を聞いたりとか、今日も上の学年の子のところに低学年の子が行って、その絵描いてるの、すごく楽しそうだから、ちょっとやってみたいから教えてくれる？なんていうやり取りもあったので、高学年の子が来てくれると、子どもたちの成長にもつながると思うので、何かいい方法があったらいいのかなと思いました。

(明石部会長) 私の案ですけれども、小学校6年生や中学3年生は既に卒業式を終えて、自宅にいる状況なので、その卒業式を終えた後の10日間なり2週間なりの限定した日程で、何か彼らにチャンスを与えるというのはいかがでしょうか。

低学年の場合は、日々来てもいいんですけども、高学年、中学生あたりは、固まった休みのときにいろんな仕掛けでこうできるよとか、そういう形で発想を切り替えていかないと、もう5年生、6年生で毎日通うというのは、無理かもしれないし、そういうことも含めて、今の高杉委員の話を聞いた中で、限定して何かの企画を提供していくというのは一つのアナウンスかなと思いました。

(2) 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画に向けた新たな点検・評価の試行実施(案)について

(事務局) 資料6に基づき説明

(明石部会長) 子どもの意見を聞くというのがたびたび出てくるんですけども、意見を聞くだけでは駄目なので、意見を聞いて、それをどう実現させたかを子どもたちに評価させるということをしなさいといけません。

子ども議会というのがあるかと思いますが、大抵1日で終わってしまっています。これでは駄目なので、千葉市の場合は、5年生、6年生を市内で公募して、50名、抽せんして選択しています。それで市長と各部局の課長さん、部長さんで市の説明をして、50名を6つぐらいのグループに分けて、水道とか教育とか子育てとかの好きなところに行って、その担当者から意見を聞いて、その5、6人のグループがディスカッションして、自分の学校に帰ったり地域で調査して、それでアンケートを取ったりして、質問を考えるんです。これを2回繰り返します。それで本会議で、市長、教育長、副市長に、みんな質問するんですよ。追加質問もありで、それでいいものは実行させる。

言いたいのは、まず意見を聞いていただきたい。聞くだけでは駄目なので、そういうディスカッションする場を設けていただいて、例えばこの子ども・子育て会議のところに来てもらって質問させて、部長とか課長が答えていくとか、いいのは実現させますよとか、そういう子どもの参加の仕

方を、市会議員の数だけ募集するとかどうでしょうか。せっかく市全体の子どもの意見を聞くというのを1ページに書いていますから、思い切って試みてもいいかなと思います。

(事務局)ありがとうございます。

(3) 令和6年度放課後施策について

(事務局)資料7・8に基づき説明

(辺見委員)令和6年度取組の中のお弁当は、すごくいいことになると思いますが、真夏ですので、保管場所などはどのようにお考えでしょうか。例えばの話になりますが、どこからか一括で持ってきて運搬するとすれば、9時頃持ってこられるところもあるだろうし、12時近くになるところもあると思います。9時頃の早いところだとどこに保管しておくのか。その辺は、管理的なものでいかなものかなと思っております。どうでしょうか。

(事務局)昼食提供についてですが、おっしゃるとおり、夏休み期間ということで、やっぱり暑さとか食中毒とか、そういったことに配慮しなければいけないということで、キッズクラブですと、学校の施設を活用した中でお弁当を配達していただきますので、冷房の効いたお部屋を確保していただくように学校とも調整した上で、また、昼食の事業者には、保冷にもしっかり対応していただくように、コンテナ等で、保冷剤を入れて、時間を置いても大丈夫な対応をするようにやっていきたいと思います。それぞれの場所で置き場所等については調整が丁寧に必要だと思いますので、特に放課後児童クラブですと、置き場所がなかなかないような場所もあると思いますので、そういったところはちょっと丁寧に、個別に対応して、安全に保管できるようにしていく予定でおります。

(三浦委員)「クラブ視点での支援の充実」に少し関係があると思うんですけども、近隣の学校で時間割変更をして、午前中に5時間授業をやるようになって、放課後時間がすごく長くなった学校がありまして、キッズクラブの主任さんとお話ししたときに、開所時間が非常に長くなっており、また、人件費も非常に厳しい状況になっているというお話を聞きました。

キッズクラブの運営って、お話があったとおり、子どもたちを見守るスタッフが一番大事な部分なのかなと思うので、そういう学校がまたほかにもできるようなので、そういうお話があったということをお耳に入れておきたいと思います。よろしくお願ひします。

(事務局)そういった学校が増えているというのは、横浜市の小学校の働き方改革であったり、日課表の見直しを進めている学校が増えているのは、我々のほうでも承知しているところです。

放課後の時間が長くなっていることだけでなく、様々な要因の中でクラブへの支援について、補助金をどうしていくのかというのは、しっかりと考えていかなければいけないと考えております。

(松本委員)資料を拝見して、前にもお願ひしたことがあるんですけども、キッズクラブと児童ク

ラブの格差というんでしょうか、そこに着目していただいて、保護者の負担を減らす、もちろん経費的な負担も減らすということで実際の数字が資料7に出ていますけれども、着実にその方向に向かっていただいているなというふうに感じています。さらなる御支援があればと思っています。

もう一つは、要配慮児童ということで、本当に個別支援学級に在籍しているようなお子さんについては、放課後等デイサービスという別の活動があつて、かなり親も利用していることが多いです。ただ、そこが利用できない、いわゆる手がかかるお子さんがいて、キッズでもちょっと雰囲気が悪くなるとか、先生の手がかかるとか、友達とけんかが多いというところに対しては、やはり苦勞されていると思うので、その辺の調査もされたらいいかなと思います。

(青山委員) 少し大きな話になってしまいますが、第3期計画との連動も考えると、先ほどの高学年の問題とか、午前だけの授業の日がある学校が増えていることを考えたときに、放課後を全部学校内だけで済ますことの限界も把握しておく必要があると思います。例えばプレイパークももちろんありますけれども、ユースセンターとか、そういったものが整備されてきて高学年はそこにも行けるとか、キッズが整備がかなり整ってきたということで質の向上をしていく一方で、学校外の居場所みたいなものとうまく連動させていくことが、恐らく次の方向性になるんじゃないかと思うんです。全てをキッズの中だけで高学年も全部ってなかなか難しいかなと思うので、学校外の居場所、先ほど明石先生もおっしゃったように、児童館も公民館もない横浜市なので、そういった地域の居場所というものとこれが連動していくような仕組みを少しずつ考えていくのが必要かなと思いました。

(明石部会長) 辺見委員がおっしゃいましたけれども、夏休みのお弁当は、非常にいいことですが心配しているのは、食中毒もそうですが、食物アレルギーの問題です。学校の先生方は、給食がありますから、分かっているんですよ。だからあまり事故は、起きません。今回、夏休みのお弁当で、キッズクラブと児童クラブの担当者たちは、お子さんのアレルギーのことをどこまで理解しているのか。

これは私立小学校であつたんですけれども、私立小学校は給食がないから、3泊4日の夏の合宿で、弁当にあるものをあげたら食べちゃって、アレルギーで救急車で運ばれたケースがあるんです。要するに言いたいのは、学校はある意味では危機管理はできているけれども、キッズクラブの場合に、お弁当が出たときに、食中毒と同時に、食物アレルギーもうまく押さえておかないと、取組自体は非常にいいことだけれども、間違いがあるといけないので、そこだけお願いいたします。

(事務局) アレルギーというところに関しては、しっかりと気をつけなければいけないことと考えています。例えばキッズクラブにおいても、おやつを提供があるので、アレルギーのあるお子さんに関しては、学校に出している管理表をキッズクラブに出していただいたりというのは、今もやっ

ているところです。今回のクラブでの昼食提供は、クラブが提供するというよりも、保護者の方が注文いただいたお弁当をクラブで出すようなことになっているので、その注文をするときに、メニューの成分とかを保護者の方が確認した上で注文できるような仕組みをまず考えてございます。

あとは取り違えで渡したりとかがないような取組は現場レベルで考えていかなければいけない部分だとは思いますが、まずは保護者の方にしっかりと確認いただいた上で御利用いただくという仕組みづくりを検討しているところです。

(明石部会長)安心しました。

| | |
|------|---|
| 資料 | 資料1 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 委員名簿 資料2 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 事務局名簿 資料3 横浜市子ども・子育て会議条例 資料4 横浜市子ども・子育て会議運営要綱 資料5 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画骨子案 資料6 第3期横浜子ども・子育て支援事業計画に向けた新たな点検・評価の試行実施(案)について 資料7 令和6年度 予算概要 資料8 放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの更なる充実に向けて |
| 特記事項 | — |